

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>1 学校と地域の連携・協働の在り方（40分） ～子どもたちの放課後の居場所づくりは地域協働で～</p> <p>都市化だけでなく、家族形態、価値観やライフスタイルの多様化など、私たちが暮らす地域は、時代と共にその姿を変えてきています。それは、子どもたちを取り巻く環境にも大きく影響しています。</p> <p>子どもたちは学校だけで学び、成長するわけではありません。</p> <p>子どもたちの健やかな成長をサポートするためには、家庭や地域社会が学びの場としての機能を果たす必要があると考えております。</p> <p>子ども時代の貴重な時間を可能な限り充実したものにしたいと思いつながら「鶴ヶ島市教育委員会重点施策」や「鶴ヶ島市子ども・子育て支援事業計画」などを拝読しました。</p> <p>それぞれに、子どもを支え育む地域づくりを施策としていることはわかりましたが、予算から見ると、放課後子ども教室運営委員会運営経費のほかの具体的な事業は、こども支援課と地域活動推進課に託されています。</p> <p>ネウボラを導入したことで、課題は常に複合的であることがわかってきたという話も聞き、子どもたちを支え、見守る地域力を強めるためには、横断的なネットワーク化を図っていくことが求められていると感じました。行政機構内での連携、そして、学校と地域の連携・協働の在り方をどのように位置づけているのかを伺います。</p> <p>(1) 放課後の子どもの居場所の現状について (2) 学童保育室と放課後子ども教室の連携について (3) まちづくりポイントとの連携について (4) 地域学校協働活動の取組について</p>	<p>市長 教育委員会教育 長</p>

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>2 子どもたちに寄り添う道徳を（20分）</p> <p>学習指導要領の改訂で道徳の時間が「特別の教科 道徳」となり、小学校は4月（中学校は2019年度）から全面実施となります。</p> <p>教科となることで、道徳の授業はどのように変わったのでしょうか。</p> <p>2014年、文部科学省の中央教育審議会が道徳を「特別の教科」に位置付けることを答申しています。2011年10月に大津市の中学2年生がいじめを苦に亡くなったことがきっかけとなっています。</p> <p>文部科学省は、「気持ちを読み取る内容が多い」との批判を踏まえ、「考え、議論する道徳」への転換も掲げていますが、授業の進め方に戸惑いはないのでしょうか。</p> <p>どのような授業に変わるのか、そして本当に「いじめ」をなくす、減らすことができるのか、市と教育委員会のお考えを伺います。</p> <p>(1) これまでの道徳の時間の課題は。</p> <p>(2) 道徳を教科とすることで変わることは。</p> <p>(3) 教科化による課題と対策は。</p> <p>(4) 子どもたちに寄り添う道徳とは。</p>	市長 教育委員会教育長